

ゴト千七

MANGA REVIEW

大和魂

『続意残ノ介』山口晃

「日本男児の心を象った刀を美男子、稚児に擬えて、なんとも不埒なり！ 斬る!!」

と、『刀剣乱舞ONLINE』を見て怒る人はいないが、そういう怒る人に向けて描かれているかのような、マンガ、漫画、日本画がある。

『続無残ノ介』である。

個展の中にある、連作日本画だ。

作者は日本画家 山口晃。代表的な作品は馬を二輪自動車にみたてた馬イク（バイク）であろう。もちろん作中に馬イクが登場する。

話は妖刀を持った剣士が、アメコミファンにはおなじみのソウルブレイカーを持ったカタナがあばれる君みたいな、たとえによって、もっとよくわからなくなる好例を示して、どうする。

『南総里見八犬伝』の村雨のような持ち主に災いをもたらす刀。

しかし、そこは現代人。

有名な宝石が呪いの伝説の噂をまく、防犯対策をしているように、盗難防止のために妖刀伝説を吹聴している節がある。有名な“なんでも”古美術を“鑑定”テレビ番組にて、近世時代の銘が入った刀一振りで一千万円を超える。“お宝”なのである。そうなる資産価値ある動産であり、盗難被害も出る。窃盗“団”に狙われる。

そこで出てくるのが、万国共通の呪われた伝説であり、名刀に妖刀のいわくつきが与えられる。これの反論として村正伝説の“徳川に崇る”がある。村雨伝説はこの派生であろうが、幕臣には妖刀でありながら伝説が資産価値を高める皮肉もある。

そんな妖刀に乗っ取られた者に挑むのはやはり刀を振るう剣士たちである。

三島のような金二郎、コンバットアーマーをした郷田、日本が世界に誇るスーパーマリオネットシアター文楽のように一振りの刀を三人で扱う、“道すがら、何とよくからくつた人形ではなきや”と『葉隠』「聞書二」にもあるようにカラクリ仕掛けの山車が変形し、古式ゆかしいロボットマンガの如くカラクリ人形が、妖刀を持って狂人と化した剣客に挑む。

もちろん、彼らは敗北する。その後の処理はしていない。そこに挑戦し負けた者を貶めない、山口の美学が見える。

一読すればわかるが、女子がない。個展には和服姿でバレーや重量挙げをする美人画「大和撫子（なでしこジャパン）」はあるが、『続無残ノ介』に撫子はいない。『ルパン三世』のテレビアニメの方で、斬鉄剣のエピソード（通称赤ルパンの「哀しみの斬鉄剣」）にある柔肌を刀身にさらすおなご（浜中ナミ）、芸術のエキスキューズの下に肌色をさらしている女人がない。（『すずしろ日記』を読むと、日本刀を振るってガチャピンみたいな顔の奥さんにケガを負わせそう）

これを言うと女性蔑視と言われてしまうが、いなくて結構なのである。柔肌を刀身にさらす浜中ナミのような女性が、妖刀を持った剣客を静めていたら、それはアメリカンコミックスの超人ハルクになってしまう。少年マンガのようなアメコミは間に合っている。

小野耕世さんは足塚不二雄の『最後の世界大戦』で、女の子がないと指摘されている。少年

マンガ誌で馬イクが出てきても、少年はもう喜ばない。（…ゼルダの悪口を言っているわけじゃない）

柔肌を刀身にさらすおなごがないのは、残念無念であるが、真っ当な、真刀な少年漫画でもある。

それもそのはず、最後に無垢が勝つのである。

『ジョジョの奇妙な冒険』の波紋バトルを思わせる、起源は白土三平であろう蜻蛉とりがある。無刀流山口派が勝つ。しがらみがないので、はっきり書くが『刀語』の百倍面白い。

ああ、『朧村正』に足りなかったのは、これなのだ（テキトー）。

テラさんが生きていたら、この連作日本画を見て、少し喜ぶと思う。

良き児童漫画、戦前ののらくろ、コグマノコロスケ、トラノコトラチャン、そして山口晃の『続無残ノ介』と…斬ったはっただから、やっぱり喜ばないと思う。

「あいや！ 待たれい」

と、自分の心の中のサムライが叫んだ。リトル本田の如く、心の中の小さなサムライブルーが呼び止めた。（パス回し）

銃や刀を悪戯に児童が操るのを、みだりに描いたりしていない。

おのこが刀を手にとるのが、実は無い。

現在の少年マンガ誌では、人気投票の過当競争や担当編集者の偏執、子供の嗜好のうつりかわりで、『侍っ子』の如く掲載もままならないだろう。かつて「正無残ノ介」は少年漫画誌に載っていた。しかし、現在の少年マンガには不射の射のように刀を必要としない物語は、いらぬだろう。

だが、少年漫画が日本画に聖庇されてきた。

だからこそ『続無残ノ介』は美術史においても、マンガ史においても、評価できる。

まことの刀剣のおのこなのだ。

これこそ大和魂の男体化である。

国粹主義と批判せよ、在日ニッポン人。

これぞ大和魂なり。

マンガレビュー 大和魂 『続無残ノ介』 山口晃

<http://p.booklog.jp/book/122480>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

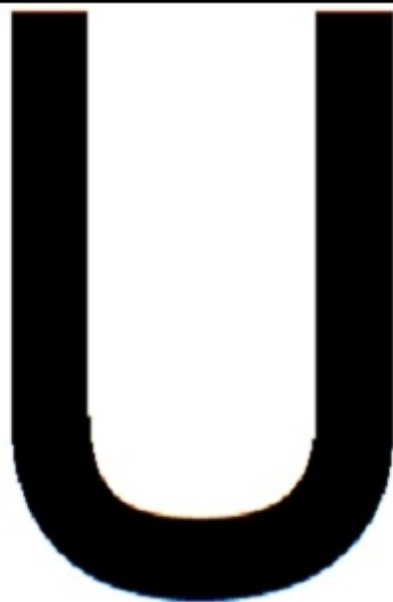
感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/122480>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト

[山口晃『前に下がる下を仰ぐ』](#)



KOUKOKU

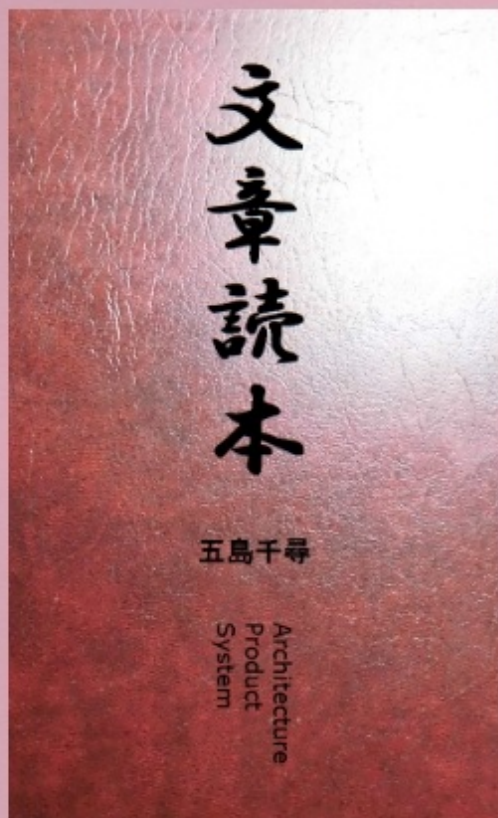
『1984年のUWF』の書評でもあり、プロレスの随筆でもあり、そのためプロレス・格闘技ファンのために、独立させた。「GREEN BOOK」に収録させている。

プロレスというのはプロモーターの意向があるもので、それなのに真剣勝負の劇薬を手にしてしまったタレントたちの話である。真剣勝負はせつない。どんなに船木に肩入れしても、世界一性格の悪い男である鈴木みのるに秒殺されるのである。

UとはUWFのUである。

アマゾン キンドル にて
単独発行

もし今、文学者が文読を作るなら、業界のコネクションを総動員して誰がゴーストライティングさせていて、ゴーストライターを誰がしているのか、調べないといけない。



amazon Kindle

税抜き600円

ウチ
イナ
コト

WELFARE BEHAVIEM

大岩満 『会社員としての生活』